

# 中・高生が発信! 愛知・名古屋の魅力

— クママックスTV —

愛知県に関する情報や名古屋の魅力を伝えるインターネット番組「クママックスTV」をご存知ですか?チーフプロデューサーの野々村ジャンマイコさんにお話をうかがいました。

クママックスTVのメンバーは、現在、愛知県在住の中・高生7名。企画会議はなく、野々村さんが番組の企画を考えます。そして、出演者や取材先への依頼など、撮影の準備を整えて、撮影日にメンバーが集まります。撮影スタッフが足りない時には、大学生が手伝いに来てくれるそうです。

これまでに、商店街などを散歩して、そこにしかない食べ物などを紹介する「ぶらり散歩旅」、名古屋にしかないディープな場所や人物などを探す「名古屋の○○を探せ!」などの番組を制作してきました。「この夏食べたい!名古屋のかき氷特集」など、季節に合った番組も企画・制作するほか、年に1回は短編映画を制作しています。こうした番組は、企画から撮影・編集を経てウェブ上に公開するまで約1ヶ月。最短だと、企画を思いついてから公開まで、2週間くらいでやりきることもあるそうです。

「取材先の店舗への交渉など断られることがあっても、あまり気にしない」という野々村さん。企画の趣旨を説明して、スポンサーを募ったり、取材先のお店にも無償で協力していただいているそうです。



撮影の様子(出演者は「若ET KISS」)

現在、高校1年生の野々村さんが、もっと地元を盛り上げたい!地元をいろんな人に知ってもらいたい!という思いで、「クママックスTV」を立ち上げたのは中学1年生の終わり頃。その前はもっぱら「出演する側」でした。CMやテレビ番組に出ていた経験や人とのつながりが、今の活動に大きく役立っていると言います。自分が出演する現場でのスタッフの動きを見て、参考にし、独学で企画書の作り方や撮影方法を身につけてきました。今、編集については、クママックスTVの制作協力をしてくれている制作会社の方から学んでいます。「初めはパソコンもあまり触ったことがなかったけど、そこから始まって、いろいろな操作の仕方を教えてもらった。中学生の頃はスマートフォンで撮影、編集をしていたけど、制作会社との関わりができるから、活動範囲がぐっと広がった」と話します。

「クママックスTV」を見れば、名古屋・愛知の情報がわかるような媒体にしたい!という目標を掲げる野々村さん率いるクママックスTVの番組を、皆さん、ぜひチェックしてみてください!



## Information

### クママックスTV

E-mail: kumamaxtv2015@gmail.com

ホームページ: <https://kumamaxtv-nagoya-jp.jimdo.com/>

☆撮影スタッフを募集中!撮影は主に名古屋市内です。映像制作に興味・やる気がある

愛知県在住の中学生・高校生の皆さん、一緒に活動しませんか?



# GO! GO! ボランティア

第19回

ヤマタツが行く!

## きっかけは、身近な何かから



### ヤマタツさんより

これからボランティアを始めようとしている方は、ぜひ、いろいろな人との会話を楽しんでください。活動を通じて、たくさんの人と関わるのがボランティアです。なので、多くの人と話をして自分の成長につなげてください!

### ある日のヤマタツさんの一日

9:30	企画者集合、当日の最終確認
9:45	参加者集合、清掃場所に移動開始
10:00	清掃スタート
12:00	清掃終了、参加者解散
12:30	昼食と企画者ミーティング
13:30	企画者解散



「くりりん」という活動です。  
夏休みのためお祭り前日の商店街  
を清掃しています

私がボランティアを始めたきっかけは「掃除」にあります。この掃除というのは、さまざまな種類があると思います。例えば、床掃除や窓拭き、ボランティアをしている人だったら地域清掃なども掃除と言えるでしょう。そんな誰もが身近に、当たり前にやっている掃除から、私はボランティアを始めることになりました。

きっかけの1つとして、中学生時代の学校生活が関わっていることは確実です。当時、運動部に所属していた私は補欠の部員であったため、練習の合間に1年生の指導や試合の副審、部室の整理をしていました。ある日、レギュラーの人から「そんなに細かく掃除したって、どうせ汚くなるから適当いいよ」と言われ、私は苛立ちを感じました。私自身、レギュラーの人たちを支えることに充実感を得ていたため、そんな言い方をすることはないと思ったからです。なので当時の私は、「部室の細かい所まできれいにするのは俺の勝手だろ。それにレギュラーはきれいに部室を使えればそれでいいだろ?」と言ってしまったのです。今思えばレギュラーの人は、私のことを思ってそう言ってくれたのかもしれません、当時の私はそう受け止めることができず、むしろもっときれいにしてやろうという闘志を燃やしてしまい、より「掃除」に力を入れる体質になって

しまったのかもしれません。またその一件から数日後に学校主催の清掃活動に参加したことで、掃除に対する考え方方が深まることになります。

その他の出来事として、「ボックスウッド」との出会いと、地域の方からの感謝の言葉があります。まず、中学生の時の清掃活動中にボックスウッドという街路樹に出会い、その木の中におびただしいほどの数の空き缶やペットボトルを発見した私は、すべてのゴミを回収しました。そこへたまたま地域の方が通りかかり、「そんなに回収てくれたんだね。ありがとう」という感謝の言葉を受けました。私は普通だと思ってやったことで感謝をされたことがなかったので、すごく嬉しくなりました。また、普段見もしないような木の中に、こんなにたくさんのゴミがあるのに見つけづらいのは、何だか宝探しをしているようでとても楽しい気分になり、「掃除」を通じてボランティアに関わろうと思うようになりました。

今、実際に関わっている活動も学校周辺の清掃活動といった簡単なものや、ボランティア先で知り合った人とのイベントの手伝い、お祭りの整備など多岐に渡ります。しかし、どの活動もたまたま始めてみたことで成り立っているので、今からボランティアを始めようと考えている人は、まず足を運んでその活動に触れることが一番のきっかけになるのではないかと思います。